

令和6年2月

財政収支に関する中期試算

財政局財政課

「財政収支に関する中期試算」の趣旨・目的

- 「財政収支に関する中期試算」は、毎年度の予算編成結果を踏まえ、向こう5年の中期的な歳入歳出を見積もり、後年度の財政収支見込（一般財源の収支見込）の推移を試算し、その傾向を把握するもの。
- この試算結果は、今後の予算編成や持続可能で安定的な財政運営に向けて、各年度の要調整額（収支不足額）に対し、中期的な視点から、歳入歳出両面でどのように対応していくか、年度間の財源調整をどのように行っていくか、さらには事業実施の進捗調整・平準化や財政負担の平準化などを検討する際の基礎的な資料となるもの。
- なお、この試算は、毎年度の予算編成結果を踏まえて作成しているものであるが、今後の国の施策動向や社会経済情勢の影響など不確定要素が多分にあり、精緻化には自ずと限界があるため、将来に向かって相当の幅を持って見る必要がある。

中期試算の前提条件

- 当初予算編成に近い条件を設定し、推計期間を令和7年度から令和11年度の5年として、試算を実施。

歳入	市 譲与税・交付金	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国の地方税収の試算などを参考に推計。また、令和6年度の税制改正大綱の内容を反映。 ○ なお、令和7年度は定額減税の影響がないものと仮定。
	地 方 交 付 税 臨 時 財 政 対 策 債	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市税、扶助費及び公債費の更新を反映。 ○ 臨時財政対策債は、毎年度発行を見込む。
	国 庫 ・ 県 支 出 金	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業費に連動して推計。
	市 債 (普通建設事業分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業費に連動して推計。
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業費に連動して推計。
歳出	扶 助 費	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過去の実績を踏まえて推計。
	人 件 費	<ul style="list-style-type: none"> ○ さいたま市定員管理計画や定年引上げ、給与改定による影響を反映。
	公 債 費	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過去の市債発行実績等に基づき、元利償還額及び利払い額等を推計。 ○ 利率は、令和6年度当初予算で使用した利率1.6%と設定。
	普 通 建 設 事 業 費 そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 財政収支への影響が大きいと考えられる政策的事業は、個別に積み上げて推計。 ○ それ以外は、令和6年度当初予算額等と同額を見込む。

令和6年度当初予算編成を踏まえた中期試算結果

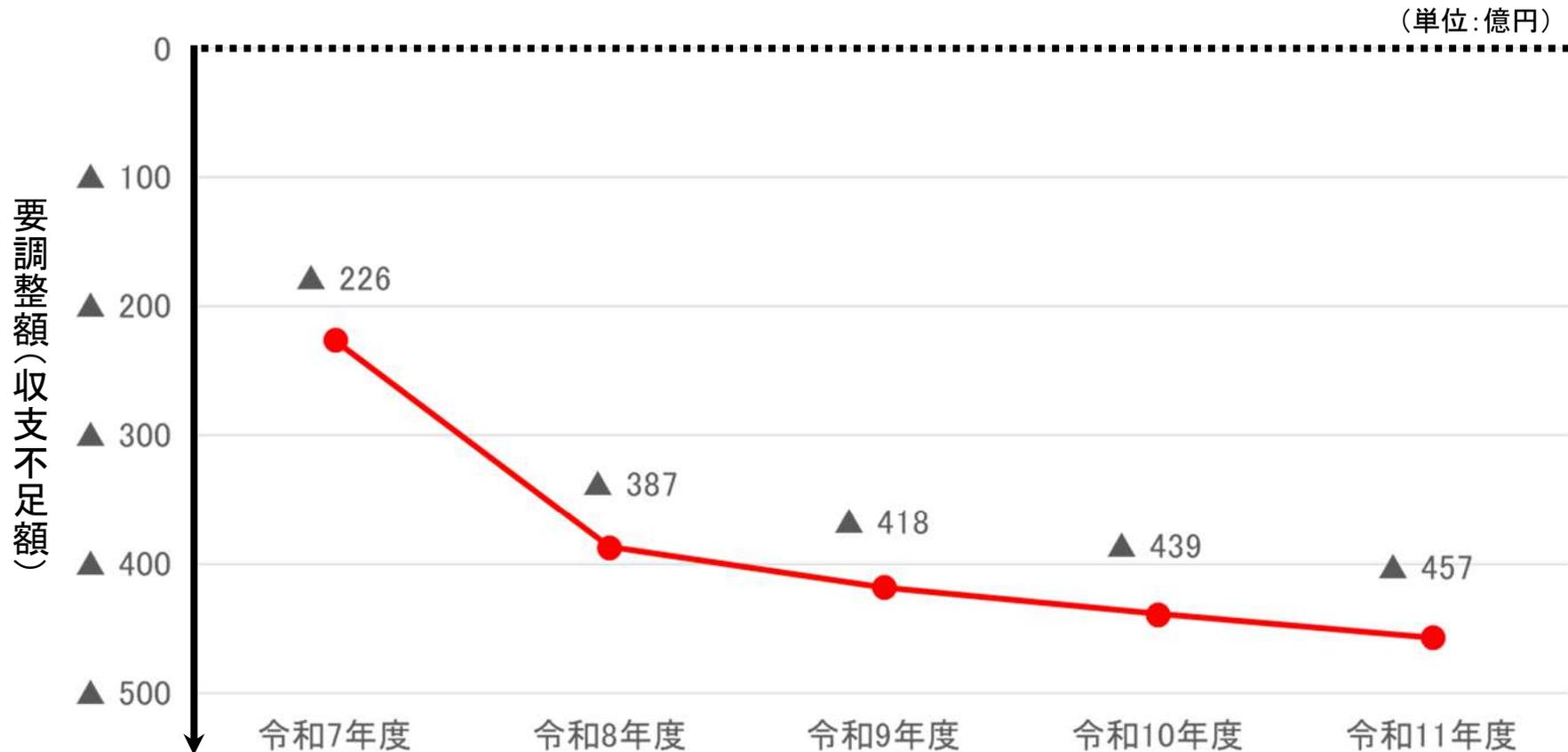
○ 財政調整基金の令和6年度末残高(令和6年度当初予算編成後)は、約174億円の見込み。

区 分		令和6年度 当初予算	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
歳 入	市税	2,828	2,952	2,979	3,011	3,036	3,061
	譲与税・交付金	573	509	526	515	518	520
	地方交付税	84	105	89	87	83	84
	国庫・県支出金	1,823	1,762	1,787	1,856	1,940	2,024
	市債	899	626	567	635	734	806
	臨時財政対策債	50	30	25	24	23	24
	普通建設事業分	779	596	542	611	711	782
	収支不足対応分	70	0	0	0	0	0
	財政調整基金	171	0	0	0	0	0
	その他	742	700	646	650	685	697
歳入合計(A)		7,120	6,654	6,594	6,754	6,996	7,192
歳 出	義務的経費	3,646	3,773	3,929	3,990	4,111	4,173
	扶助費	1,692	1,829	1,894	1,963	2,034	2,111
	人件費	1,413	1,402	1,456	1,426	1,474	1,450
	公債費	541	541	580	601	603	611
	普通建設事業費	1,263	957	891	995	1,134	1,228
	その他	2,211	2,150	2,161	2,187	2,190	2,248
歳出合計(B)		7,120	6,880	6,981	7,172	7,435	7,649
要調整額(収支不足額)(A-B)		0	▲226	▲387	▲418	▲439	▲457

※ 計数はそれぞれ四捨五入しているため、合計とは一致しない場合がある。

財政収支の見通し

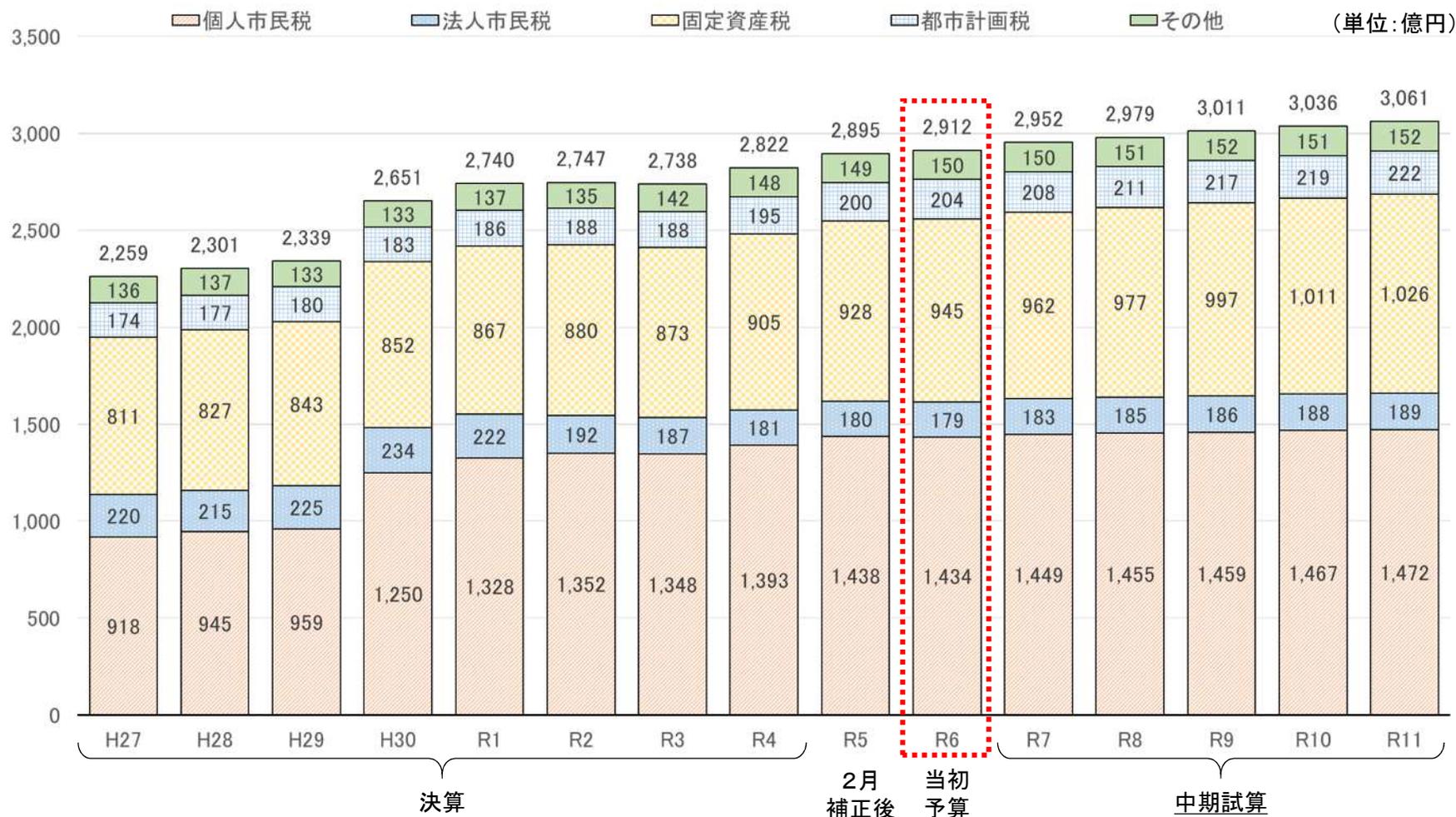
- 推計期間 令和7年度～令和11年度
- 推計ベース 令和6年度当初予算編成結果を基本として推計



- ※ 財政収支の見通しは、一般財源ベース。
- ※ 内閣府「中長期の経済財政に関する試算」や歳入・歳出の状況など、現時点で見込むことができる条件を前提に推計。この試算は、不確定要素を多く含んでおり、将来に向かって相当の幅をもってみる必要がある。

【参考①】市税収入の推移と今後の見通し

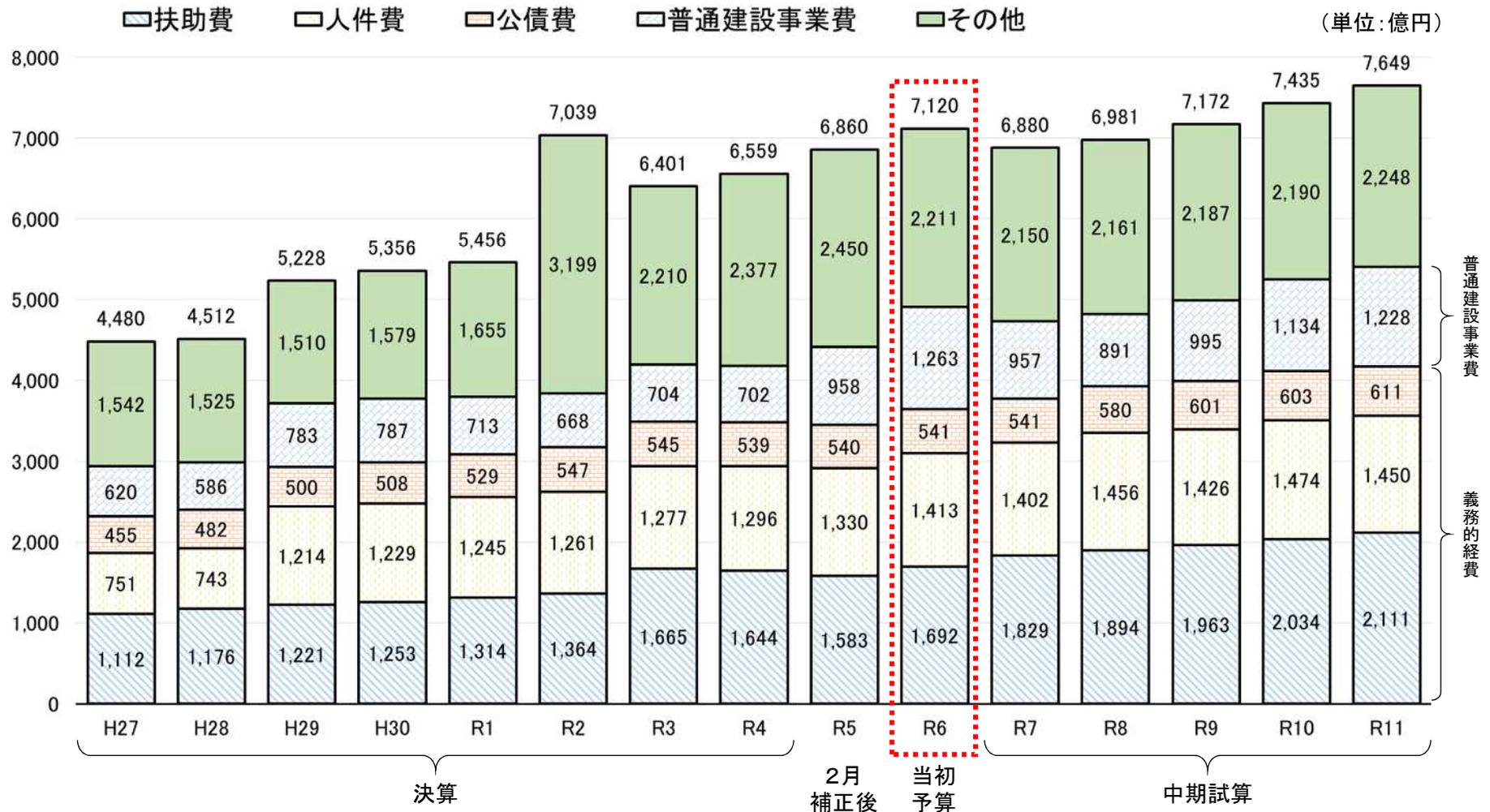
- 市税収入は、個人市民税・固定資産税が全体の8割超を占め、景気変動の影響を受けにくい構造。安定的である反面、企業収益の伸び等は市税収入には直結しにくい。
- 今後、給与所得の伸びが期待される一方、人口増加が続いても生産年齢人口は減少傾向。



※ 中長期的な傾向を把握するため、R6当初予算の数値は、定額減税の影響がない場合の数値に置き換えている。

【参考②】 歳出の推移と今後の見通し

- 義務的経費(扶助費・人件費・公債費)は、着実に増加。
- 普通建設事業費は、令和7年度は減少に転じるが、令和5年度と同水準。令和9年度以降増加。



今後の変動可能性と財政運営に当たっての課題

○ 地方税財政制度

令和7年度以降の一般財源総額実質同水準ルールを取扱いに関する議論や
毎年度の地方財政対策、地方税制改正の動向

○ 市税等収入

経済情勢の変動による個人市民税を始めとする市税等収入の動向

○ 義務的経費

〔人件費〕 民間の賃上げ状況を踏まえた給与改定等への対応

〔扶助費〕 人口・高齢者数の増加に伴う子ども・子育て施策と社会保障施策への対応

〔公債費〕 経済情勢の変動による金利の動向

○ 投資的経費(普通建設事業費)

都市基盤整備と学校施設等の公共施設の老朽化対策への対応

資材価格の高騰等による事業費変動への対応

事業執行体制も踏まえた事業の実施と財政負担の平準化

○ 持続可能な財政運営

今後の歳出全体の規模の平準化、持続可能な事業内容・歳出構造への転換